

今回は、部品の変更(PCN:Product Change Notice)と生産終息(EOL:End of Life)についてお伝えします。

部品の変更通知と生産終息通知の増加

部品メーカーによる生産性改善などの理由から生産設備・方法・材料・生産拠点などが変更となるPCN(Product Change Notice)や、ライフサイクルの短縮化による生産終息部品EOL(End of Life)の通知が増えており、弊社でも昨年辺りから対応件数が以前の2~3倍に増加しています。

電子部品を例にとりますと、①採算性が悪い部品の販売終了 ②部品の小型化など技術が進んだことによる旧部品の淘汰 ③部品メーカーの合併、事業売却などの理由から、これまで以上に早く、多くの部品がEOLになっています。半導体につきましては、半導体生産工場の火災、水不足や寒波の影響、中国の禁輸措置などによる半導体生産量の減少により、半導体不足が逼迫している状況の中、EOLは増加の一途をたどっています。電子部品を多く扱う製造業の方にとって、電子部品EOLの問題は深刻な問題になっています。

部品のEOLの問題点

EOLが発生した場合、①EOL発生部品の代替品の調査を行い設計の変更を行うか、②所要を把握し在庫を確保するという動きになるかと思えます。①の代替品調査をして設計変更を行うには、いくつもの過程が必要で工数が増えてしまいます。機能品質を上げるためではないのに膨大な作業が発生し、無駄な必須業務が現場で発生します。また、量産中の製品についての設計変更の対応は現実的ではなく、業務課題としての問題が発生します。

次に②在庫確保についてですが、今後必要な部品の数を正確に把握するのは、非常に難しいです。所要が把握でき部品の在庫を抱えたとしても、その部品を使い切るまで在庫が拡大した状態になります。また、在庫として抱えた部品を製品にできなかった場合、破棄せざるを得ません。また、商品として製品が売れない限り、在庫を抱えることになり、キャッシュフローにも大きな影響が出てしまいます。これは、後々に経営面に課題を残す結果になってしまう可能性があります。

EOL対策のポイント

ライフサイクルの長い製品を継続的に生産するためには、部品の安定確保が欠かせませんが、EOL部品に対する対策としては以下のようなことが考えられます。

- ・開発/設計段階で近い将来EOLとなりそうな部品を採用しない。専用部品ではなく汎用品を検討する
- ・災害等の突発的な部品供給難に備えて、代替可能な部品を準備しておく
- ・近い将来EOLとなりそうな部品の予測情報を入手し、他社に先駆けて必要な部品数を確保する

部品のEOLやライフサイクルの予測、代替部品に関する情報を網羅して管理することがポイントと考えています。どれもが、地道な作業や検証にはなりますが、継続していくことが重要になるかと思えます。

[弊社の取組み]

弊社では、電子部品の生産中止によるお客様製品の延命・再生のお手伝いをさせていただいております。

こんなことでお困りではありませんか？

- ▶ 電子部品のEOLにより製品の継続生産ができない
- ▶ 機種を統廃合してトータルコストダウンをしたい
- ▶ 開発を進めたいがリソースが足りない
- ▶ 短期間での開発が必要

上記のような課題の解決に向けて、生産中止情報の早期収集と迅速な情報共有ならびに部品選定、評価・採否判定までを短期間で行うことでお客様に最適なお提案をいたします。お困りのことがございましたらお気軽にご相談ください。

関連URL：<https://www.hirotass.co.jp/products/ems/374/>